

トランシネマ提供

第1回 上映会

2015年

7/5(日)

せんだいメディアテーク 7階 スタジオシアターにて

昼の部

夜の部

12:00 開場
 12:30 作品解説(前説)
 12:45 上映開始
 14:00 トークショー
 14:30 上映会終了

17:00 開場
 17:30 作品解説(前説)
 17:45 上映開始
 19:00 トークショー
 19:30 上映会終了

※昼の部と夜の部の内容はどちらも同じです。 ※夜の部終了後に“カレー懇親会”を予定しています。(別会場)

- 前売券:大人1,000円/小中高生500円(当日券:大人1,200円/小中高生700円)
- 前売券の取り扱い:メールにてお問い合わせください。

会場のご案内

せんだいメディアテーク

仙台市青葉区春日町2-1
022-713-3171

●アクセス

【地下鉄】仙台駅から泉中央行で、勾当台公園駅下車。「公園2」出口から徒歩6分。

【バス】仙台市営バス 仙台駅前-29番(荘内銀行前)乗り場から「定禅寺通市役所前」経由交通局大学病院」行で約10分、メディアテーク前下車。



トランシネマ(trancinema)とは

変革・変容を意味するtransformationと、映画館cinemaを融合した造語。

仙台市・宮城県の未来像を「復興でなく新たな変化」と捉え、変革・変容の場としてのミニシアター開業を目指す団体です。その準備段階として、良質な映画の上映会を順次開催していきます。お楽しみに!

<https://www.facebook.com/trancinema>

トランシネマ提供 第1回上映会

黄金寺院で
いただきます

65分のミラクルトリップ

聖者たちの食卓

Himself He Cooks



お問合せ

トランシネマ代表 山内敬 090-8108-8065 trancinema@gmail.com

<https://www.facebook.com/trancinema>

後援

仙台市/仙台市教育委員会/仙台市市民文化事業団
河北新報社/TBC東北放送/KHB東日本放送/仙台放送/ミヤギテレビ

大きな鍋で作るのは、10万食分の豆カレー

聖地インド“黄金寺院”の大きな団らんを体験する
極上のショートトリップ・ドキュメンタリー



イントロダクション INTRODUCTION

インドのハリマンディル・サーヒブ<黄金寺院>では、毎日10万食が巡礼者や旅行者のために、すべて無料で提供されている。そこは宗教も人種も階級も職業も関係なく、みなが公平にお腹を満たすことができる「聖なる場所」だ。想像すらつかない沢山の食事は、毎日どのように用意されているのだろうか？スクリーンに映し出されるのは、驚くべきキッチン舞台裏と、それに関わる人々の一切無駄のない神々しい手さばき…

インド黄金寺院で古くから伝わる食卓の風景に、心解さほぐされる極上のショートトリップ・ドキュメンタリー。

製作年：2011年/製作国：ベルギー/上映時間：65分/カラー作品



2012年
東京国際映画祭
ナチュラル TIFF 部門
グランプリ

監督 DIRECTOR

フィリップ・ウィチュス Philippe Witjes

1966年生まれ。映像作家兼フリーの料理人・料理評論家。ブリュッセル国内で食に関連したさまざまなプロジェクトに携わるほか、マダガスカルやセネガルなど世界各地で1000人以上の食事を作るボランティアもしている。



ヴァレリー・ベルト Valérie Berteau

1975年生まれ。ブリュッセルの大学でビジュアルコミュニケーション、写真を学んだ後、フォトジャーナリスト兼映像作家の道に進む。NGO団体などと一緒に、多くのプロジェクトのコーディネーターとして活躍している。



映画へのメッセージ

<順不同・敬称略>

響き渡る人の声、鉄板の上で踊るチャパティ、投げ込まれぶつかり合う皿。参りました、ガイドブックでは伝え切れません、このサウンドと臨場感。最新版『地球の歩き方 インド編』の表紙を飾っているアムリトサル黄金寺院。まさか中に入るとこんな舞台が繰り広げられているとは。旅は行かないとわからないことだらけ。

そうだ、豆カレー食べにインドに行こう！

—宮田崇 (『地球の歩き方 編集室』インド編担当)

こんなことが実現可能だなんて！
10万人の食卓を通して、人の中に眠る“神さま”を見る映画。

—服部みれい (マーママガジン編集長・文筆家)

もの凄くことがさらっと描かれているのだが、被写体たちにとってはこれが日常なのだ。

この特別感のなさがおかしくて仕方ない。だから食器を洗ながら「別に普通ですよ、こんなの」という表情さえも面白い。しかし制作者は画面を覆う人の群れをまるでスペクタクル映画のように、飛び交う大量の食器をアクションそのものと捉えている。そして僕らは10万人分の食を通して「生きる」ことそのものを考えさせられる。言葉はなくても、映画でしか伝えられない体験だった。

—松江哲明 (ドキュメンタリー監督)

喧騒と混沌にあるインドが描かれている。

しかしその向こう側に見えてくる、すべてが清浄で根源的である、完璧な食風景を鮮やかに感じました。みんなで作って食べるって美しい。

—佐々木俊尚 (作家・ジャーナリスト)

『聖者たちの食卓』公式ホームページより<http://www.uplink.co.jp/seijya/>

シク教徒がグルドワラ (礼拝の場所) で唱える祈りの言葉

“Loh langar tapde rahin”

(ランガルの鉄板がずっと使い続けられますように)

